

大上製本株式会社 代表取締役 井上 進一

製本業をやってまして、主に「中綴じ」と「折り」を中心にやってる会社です
針金で綴じることが「中綴じ」その前の工程で紙を折る作業を「折り」といいます。

昭和 39 年に先代の私の父親が北区の赤羽で創業しまして、その後に会社が成功してだんだん大きくなった昭和 51 年に板橋の広い工場に引っ越しました。

父親の頭の中では 70 歳を超えたら私に会社を譲るという考えがあったみたいで、今から丁度 8 年前の平成 26 年に社長を交代して私が引き継ぎました。

現在は、引き継いだ父親の仕事の付加価値になるような難しい仕事、具体的に説明が難しいのですが製品の精度が求められるようなシビアな仕事を積極的に取り入れるようにしています。当初は実現できるかとても心配だったのですが、うちにいる職人さんが一生懸命に頑張ってくれて「うちでも出来る。うちの技術もまんざら捨てたもんじゃないな」と思って、みんなの技術が結晶した感じがしてとても嬉しかったです。

板橋は下町っぽいところがまだ残っていて、人情味があるというか、そういうところが大好きで、すごく良いなと思っていて、区も花火大会とかいろんなイベントを頑張ってやってくれるので、板橋で骨を埋めたいなって思っています。

製本の中でも絵本は見開きのページとページの継ぎ目の絵柄が合っていないとダメで、精度をすごく求められるので今までこだわってやってきて、そこが上手くいくと自分自身も嬉しいし、職人さんもやりがいを感じていると思います。

絵本を読む人にとってはそういうところは当たり前のことだと思うのですが、職人がそういうところまで気を使って絵本を作っているということを皆さんに知って頂けると、うちの会社の人間も一層のやりがいを感じてすごく頑張ると思うので、少しでも感じてもらえると嬉しいです。

印刷製本業が絶えることなく続いていくには、これから若い職人さんをどんどん増やして行って、将来その方たちの力を借りないといけないと思うのですが、多分この業界自体を皆さんは知らないと思うので、まずは板橋の印刷製本業を知ってもらって、働いてくれる人たちがやりがいを感じられるようになったら嬉しいと思っています。

